

下関市立学校適正規模・適正配置基本計画策定に伴う地元説明会

1. 場 所：小串公民館

2. 日 時：令和 7 年 7 月 24 日 19：00～20：45

3. 参加人数：31 名（教育委員会を除く）

4. 主な質疑

■参加者

豊浦町の説明会、全部で 4 回出席している。そもそも、この説明会の趣旨がきちんと説明されていない。このペーパー（計画の概要）の中身だけでしか話ができない印象があるので少し説明をする。この会は、教育委員会がこの案を作って、各地域で説明会をし、同時にパブリックコメントで市民から多くの意見を聞いている。案なので、必要があったらこれに変更を加えて、それで基本計画を作る。それを市議会で報告をして、それでやっとこの案が取れて、いわゆる基本計画ができる。その基本計画ができた段階から、具体的に各地域で統合の説明会をし、具体的なことを進めていくという手順だと思う。だから、今日がスタートではなく、この案が取れた段階からスタートという位置付けだということを確認したい。

資料の中にある、適正化の実施に関する事項について、この計画がそもそも数十ページあるものを、この 1 枚裏表に集約しているので仕方ないが、今日の資料に書いてあるのは、考え方の補足説明みたいな部分で、本当に適正化の実施の手順としては、本文では、「学校は児童生徒の教育のために設置されている施設であり、学校の適正化の検討に当たっては児童生徒の教育条件の改善の視点を中心に据えるべきですが、地域住民から見た学校は、地域社会の将来を担う人材を育てる中核的な場所であるとともに、防災、保育、地域の交流の場など様々な機能を有している場合も多く、学校づくりがまちづくりと密接に関わってくることになります。また、本市では、学校が抱える様々な課題を解決するために、全小・中学校をコミュニティ・スクールに指定し、地域学校協働本部を各中学校区に設置するなど、地域と連携した学校づくりを推進しており、学校運営に地域住民が密接に関わっている状況があります。このため、学校の適正化については、次に示すとおり…」というので、今日の資料に示されて、それを「保護者や地域住民に対して十分な説明を行うとともに、保護者や地域住民の理解や協力のも

とに進めるものとします」という基本的な考え方が書いてある。その部分が省略されている。

そこが、この計画の、地域との関係で言えばポイントだと思う。口頭では言ったがそこが抜けているということを指摘する。

□教育委員会

今日の説明会の位置づけは、第4期計画の案を取りまとめたので、策定前に市民の意見を聞くパブリックコメント、統廃合の組み合わせに出ている学校の地区については地元説明会を行っている。今後、計画を策定し、そのあとで、統廃合をどうすべきかを各地域で話し合いをする流れである。計画は基本計画のため、イコール実施をする計画というわけではない。教育委員会として、望ましいと考えている統廃合の組み合わせ、適正規模の取組を統廃合によって行うということを示している。それをどうするかは、各校区の皆さんと協議をして進める。

第3期まで計画を立てて取り組んでいるが、いくつか統廃合を実施した学校がある。いずれも、地元と統合に向けた確認ができてから進めている。それを抜きに進めた事例はないので、地元と話し合い、統合することの確認ができなければ進めない。今回、第4期計画が令和7年から11年までの5年間だが、令和11年を迎えたら統合を実施するというものではない。話し合いで統合に向けた合意ができなければ実施はしない。

学校は地域に支えられており、地域に与える影響も大きく、相互に関わっている。それについて、本日配付した資料で説明していないことに関しては指摘のとおり。教育委員会は地域から学校をなくしてよいと思っているわけではない。学校が小規模化になることによって、学校の特徴であり機能である子供たちが集まる場所、それが一定の規模が保てなくなったときに学校としての機能が十分発揮できなくなる。そこに課題を感じており、地域から学校を無くしたいと思っているわけではなく、規模を確保するために統合するということを提案している。

現在、本市でも人口減少が進んでいる。学校の規模も小さくなっている。日本全域で人口が少なくなっている。これについては、地域のありようも変化しているところだと思う。その中で、学校と地域の取組は今まで通りではない考えを持って取り組んでいかななくてはならない。学校がなくなってよいわけではないが、学校の規模は確保していかなければと思っている。そこは、今後の話し合いの中で、どう考えるべきかを議論しながら、この地域においてはどう考えるかというのを確認しながら進めていきたいと思う。この5年間で必ず統合するのを決めているわけではない。

■参加者

児童数の推移の中で、小串小学校の児童数学級数があるが、確か平成 17 年の 2 月、教育委員会の規則の中で、従来の学校の校区を廃止したか変更したと承知している。その中で、小串地区から川棚小学校へ一部の児童が行けるようになったと理解している。その時代から今日まで、小串地区から川棚小学校へ何人くらい毎年行っているのか。それが良い悪いは別として、時代の流れがあるので、それを否定するわけではないが、ただ数字だけの中で、子供が少なくなったので統廃合しましょうというのはいかがでしょうかと思う。それが 1 つ。

規模は小さくても、学校というのは地域の心の拠り所であり、地域の方も一緒になっていろんなことができる身近な存在である。その辺も踏まえて、お願いしたい。

□教育委員会

校区外に通学する児童の数について、校区ごとには公表していない。小串小学校の人数は言えないが、豊浦町全体の児童生徒で言うと、511 人のうち校区外通学は 32 名。

小規模校の良さは十分承知している。小規模校は人数が少ない。先生 1 人が児童に向ける目は向けやすいところもあるし、少人数であれば子供たちのコミュニケーションも深いというのも承知している。一方で少人数になるとできない課題に対し目を向けている。良いところも課題もある。地域に根差した小規模な学校がよいと思う人もいる。保護者もそこがよいと言う人もいる。直接意見をもらっている。一方で、少人数になると不安、より多くの子供たちの中で育てたい保護者もいる。それぞれ相反する考え方がある。これについて、教育委員会としては、小規模の課題を解消したいと思っているが、それぞれの考えがあるので、それは地域の中で話し合いをして、小串、宇賀をどうするかを考えていきたい。教育委員会は一定規模を確保するために統合が望ましいと考えている。今後議論をしていきたい。

■参加者

今年、小串から川棚に行っている児童は。令和 12 年度は 30 人か。

□教育委員会

校区ごとの人数は公表していない。資料の令和 12 年度の数字で合計で 30 となっている。これは住民基本台帳に、今、小串校区にいる年齢の子供が 12 年度を迎えたときに 1 年生は 4 人いる、6 年生 6 人いるというのが、そのままスライドした数字で、校区外通学の人数は加味されていない。7 年度については実際

に学校にいる数である。

■参加者

1 つ目は、この基本計画第4期計画の冊子が総合支所のロビーにあり、パブリックコメントを募集しますとし、1冊あるだけである。先ほど始まる前に、教育委員会にお願いをしたが、少なくとも各公民館に冊子2冊ぐらいいは置いてほしい。そうしないとパブリックコメントを出せない。ベースとなる文書がない。

もう1つは、小学校の子供たちと保護者に、教育委員会は、学校を通じて今後の学校のあり方、統廃合を含めて、おそらくアンケート調査をしていると思う。これを公開すること。結局この問題は、子供たちと保護者の思いがベースである。子供たちと保護者の思いを置いて、地域の人間だけで考えることができない。今日も、保護者の参加が少ない。しかも発言すればよいが、遠慮する傾向もある。今後は地域として、保護者を踏まえた懇談会を、学校運営協議会にお願いしてやってもらおうと思っている。だから、まずはアンケート調査があれば、それは公開すると答えていただけたらありがたい。

□教育委員会

計画書の配付については、本日は本編は配付していない。今回はこちらの資料で説明するため、またホームページで公開しているということもあり、今回配付する用意をしていなかった。

保護者については、今回の計画は、パブリックコメントと地元説明会について、学校を通じて案内をしている。地域の説明会ということで、それぞれの校区ごとにはしていない。これまでの3期計画までの取組の中で、各校で随時PTAを通して保護者と意見交換を行っている。これは引き続きやっていきたい。

子供の意見については、1学期末に簡単なアンケートを実施した。適正規模適正配置や統廃合に関すること等、学校がなくなるようなダイレクトなことは聞いていない。クラスの人数や困りごとに関して、簡単なアンケートをしている。こちらについては、集計して公表する予定。

■参加者

もともと、優先対象校の5学級以下ということ自体、何で決めたんだという気がする。もう学校としてもできないという部分も確かにあると思う。小規模校になれば先生の数が減って、授業以外の学校運営でも大変だと思う。校長先生はわかると思う。あるいは、複式学級と普通学級と比較してどちらがよいかという話も出ると思う。複式学級を受け持っている先生の意見も生で聞きたい。もう無理だと言う先生がいたらその先生に任せるわけにはいかない。要するに教育委員

会としては統廃合を進めたい、それに対してもうちょっと具体的な部分を言ってくれないと判断できない。以前は宇賀と小串が統合するような話だったが、今度は宇賀と小串が川棚と統合すると話は変わってきている。

スクールバスの件について、第3期の説明会では話があって、この場ではスクールバスという感じでは伝えられていない。議会の中で、市長が4キロ以上でないとだめと言った。それをそのままここに持ってきて話が通じるとしたら大間違い。バスが宇賀まで行くのだったら、宇賀の帰りに、小串の子供たちも国道まで出ていたら乗せるという特例を作るとか、はっきり言って営業と一緒にある。そのぐらいの気持ちで、住民を説得するぐらいの内容を持ってくれないと受けられない。

□教育委員会

複式学級のことについては、1つのクラスに2つの学年があってそれを1人の担任が授業をしたり一緒に生活したりする。それが大変か大変じゃないかは担任は言わないと思う。大変と思っても、やりがいを持って、宇賀小の先生も小串小の先生も取り組んでいると思う。ただ、1つのクラスに2つの学年がいて、それを一緒に授業をするというのは、大変だというのは確かにある。その大変さを克服するためにたくさん研修をしたり、市教委もアドバイスをしたりしている。決して複式学級がよくないから統廃合しようとか、小規模だから大規模と同じことができないから統廃合しようというわけではない。今、小串小も宇賀小も先生の努力や、地域・保護者の協力で素晴らしい学校になっている。そこは市教委もしっかり支えたいし、地域・保護者には感謝の気持ちを持っている。ただ、今後の推移や今の学級数を見ると1人の学年がある。4人と5人の複式のクラスで授業をするのと、1人と3人のクラスの1人と授業をするのは、担任にとって難しさがある。どうしても先生と児童の1対1の授業になってしまい、担任も苦勞をしていると思う。今の推移を見ると、令和12年度はそれぞれの学年に数はある。このぐらいの数で推移すれば担任も授業を組み立てられるが、この先の人数は全国的にも少子化が進んでくる中で、1とか0が出てき始めると、学校も今と同じような学校づくり、学級づくりが難しくなってくる。そういった面で、今から、小串小と宇賀小をどのようにして学校として残していくのか、統合を考えていくのかを一緒に考えていきたいと思いますということで計画を示している。

スクールバスについては、小学校は4キロ、中学校は6キロ以上に遠距離通学の補助を出している状況。今はこの基準しかお話しできない。検討委員会からの意見として、小学校低学年が4キロ歩くのはどうかという意見があり、教育委員会も課題は感じている。ただ、制度を作るという答えを持っているわけではな

い。将来に向けて、今以上の遠距離通学の支援をしていくことは、財源の裏付けが市として担保できないとその説明はできない。

■参加者

小串小学校の児童数令和 7 年度が 17 人で、令和 12 年の 30 人は住民基本台帳上で小串に住んでいる数字。17 と 30 は数字の趣旨が違う。だからみんな誤解すると思う。例えば、どう考えたらいいかといえ、令和 7 年 1 年生がゼロ。この子供が令和 12 年には 6 年生。でも 6 年生のところに 6 人もいる。この 6 人が小串小学校に入るかという話。誤解するのでこのような表は作らない方がよい。令和 2 年度で 41、これは数字が大きすぎる。

先ほど言ったが、学校というのは子供たちと保護者の思いを大事にして、その思いが小学校の生活に生かされるような、そういう学校でないといけないと思う。一方で、小学校は地域の町づくりの核。それがなくなることは困るというのは皆思っている。地域の人間だけではなく保護者も思っている。しかし、考えてみれば、小学校の子供たちと保護者に、地域の核として頑張れと言うのは、少し酷だと思う。地域の核として頑張るのは公民館だと思う。今後は、今以上に公民館の活動を活発にして、地域の核づくりも担う機関として位置づけるということに視点を置いて、小串の地域づくりをやっていくことが大事と思う。

今、この公民館では、「夏休み宿題やつけ隊」というのをやっている。従来は小串小学校の子供たちだけでやっていたが、今年は川棚小学校と宇賀小学校に呼びかけて、全部で 20 人以上集まって非常ににぎやかにやっている。小串小学校から来ているのは 5、6 人。その女の子たちが、小串小学校は男の世界だと言っている。その女の子が 5 年生で、男子ばかりで女子は 1 人。男女比のバランスが悪い。

小規模校の複式学級の良さは、先生の頑張りによって、学力等非常に良い小串小学校の状況だとは思いますが、一方でそれだけではない問題点がいっぱいある。やはり友達がいっぱいいるとか、6 年間同じ顔ぶれで過ごすのは、それでよいのかとか、男女比のバランスが悪い状況で 6 年間過ごしてよいのか等いろいろある。そういう意味で、地域として、この説明会の後、保護者ともう卒業してしまった高齢の人と話し合いをやって、今後の小串小学校のあり方を小串として提案していきたいと思う。

□教育委員会

資料の裏の数字について改めて説明する。令和 2 年度と令和 7 年度は、実際にその年度の小串小学校の児童数。令和 2 年度は合計で 41 名。令和 7 年度は現在 17 名。12 年度については住民基本台帳上の数をそのまま経年スライドし

ている状況なので、7年度の1年生が12年度の6年生になるので、この部分は校区外通学。12年度が合計で30名というのは住民基本台帳の数字。現在小串小は17名で、現在も少子化は進んでいるので、同じ程度の動きがあるとすれば、5年先は17名よりも少なくなることが想像できる。

公民館は、コミュニティづくり、防災の拠点としての機能が期待されている。学校も核、公民館も核だと思うが、学校は児童生徒の教育環境が最優先なので統廃合の案が出ている。市の公共施設マネジメントの関係で公共施設の適正配置に関する方向性が出ていて、今後の町づくりをこうしてはどうかという提案をしている。その中で、豊浦町では公民館とふれあいセンターを町づくりの拠点と位置付けて、そこを中心として町づくりをしてはどうかと提案している。公民館は避難所としても使える場で、市教委は公民館も所管しているので、公民館も振興していきたいと思っている。

■参加者

黒井、室津、宇賀、小串の説明会に出ている。

小規模校のいいところがあるというのは、各地域から意見が出ている。今回の説明が、複式学級を解消するということで統廃合。一番最初の方の回答に関係するが、案が取れた段階でもう1回スタートという話をした。その案は、例えば地域からも提案できるというふうに聞こえた。その中で質問したが、小規模特認校、それを例えば、小串がよいか宇賀がよいかは別にして、この地域では小規模特認校として学校を残してくださいといった提案をしたら、それは検討の余地があるのか。今の教育委員会の提案は統廃合。例えば地域が特認校、それから学校家庭特例制度を活用した特殊な学校、そういうのも国の法律としてはつくれるようなことが書いてある。それは第2回の検討委員会の中で提案された資料の中にある。話は戻るが、地域は小規模特認校として学校を残してほしいとまとまった場合は、それは検討する可能性があるかどうかというのが質問の1個目。

もう1個は、スクールバスの件である。4キロともう1つ制限が1時間以内。1時間以内に通学となっている。例えば小学校1年生の児童は4キロの場所に住んでいて1時間では通えない。それは無理があると思う。例えば統廃合OKだと小串になった場合、スクールバスを出す条件を検討すると思う。その時はぜひとも検討してもらいたい。今のルール上では検討の余地はないと言うふうに聞こえるし、もし統合がOKとなれば検討してもらえるようにも感じる。統廃合がOKとなった場合は、ぜひともスクールバスを検討してほしい。川棚に行くので国道を通るならそこで拾ってもらえばいいのではないかと簡単な話ではないと思うので、検討はしてもらいたいと思う。

それから、川棚地区で説明会がないのはどうかと思う。例えば川棚小学校は浸

水地域。そこに子供たちを通わせるのか。実際に川棚小学校に通っている保護者は、大したことはないと思っているかもしれない。しかし、ハザードマップに浸水被害と書いてある。小串と宇賀から、そんなところに子供を通わせて大丈夫だろうかということになると思う。やっぱりハザードマップ上で問題ない、或いは対策をする、物理的なことは無理でもちゃんと避難訓練をする等やってもらう。もう1回説明会をすると思うので、それを説明しないと地域の人たち、保護者の賛同が得られないと思う。

最後に公民館の話。小串小学校とは、密にいろんなことをやってきた。公民館は生涯学習というところなので、学習をしないといけませんが高齢化が進んでいる。例えば、小串支所と公民館を合わせたような、本当の地域の核となるようなものにしていきたい。地域の核となるには、子供がいないと地域の核にならない。本気で地域の核として公民館を残すという話であれば、子供たちがいるような地域にしなければならない。学校が統合したら、皆川棚に引っ越して小串には住まないかもしれない。現に豊北がそう。豊北もなかなか人が増えない。小学校1校、中学校1校にしてしまったからという話もあるかもしれない。

あと宇賀と小串は同時ではなく、例えば小串は賛成で宇賀は反対となった場合、小串だけ統廃合するのかという質問が出たと思う。その場合の説明では、今はとにかく複式学級を解消したいから、まず小串がOKだったら統合を進めるということを確認言ったと思うがどうか。

□教育委員会

地域の意見を計画に反映できるかということについて、その統合の是非に関してして結論的な部分を各地域で確認した上で計画策定となると、計画策定自体がずっと先になるので、そこを校区ごとに調整した上での計画策定とはならない。一旦時間的な区切りを引いて、意見は踏まえるが、計画として定めた上で、実際にそれを実施するかどうかは、計画策定後にそれぞれPTA、保護者、地域と話し合いの場を持ちながら、その是非について結論を出していくという形で、ここまでの3期計画はきている。結論のところまで待って計画策定ということは考えていない。もし、計画策定までに、地域の総意的なものが見えれば、そこは計画に反映するかどうかは考えないといけない。

2点目の遠距離の4キロ1時間というところでは、低学年が4キロで1時間という目安について、小学校1年生から6年生まで体力にはかなり差があるので、1年生で考えた場合には当てはまらないかもしれないという課題感を持っている。それに向けて遠距離通学の支援を提供していくかどうかということに関しては、将来に向けて財源の担保が整理できないとお答えできないが、課題認識はもっている。

3点目、川棚小学校は、ハザードマップを見ると、川棚川が近い位置にあり浸水地域になっている。川棚小学校が浸水地域にあるので学校を壊すのかというと、そういうわけではない。川棚地域に住んでいる多くの皆さんがいて、ハザードマップはそれを確認した上で、災害に向けてどうするかというのを確認する資料となる。防災に関してどう対策するかということ。災害もいろいろあり、浸水もあれば、高潮もあるし、土砂災害もある。実際にハザードマップでいうと、小串小学校も宇賀小学校も土砂災害のハザードマップに色がついている地域である。そこは各学校でそれぞれ災害対策はしないといけないことに変わりはない。

小串小と宇賀小が川棚小の位置で3校で統合というのを示している。小串小と宇賀小に統合に向けた意識の違いがあって、スピード感が違う場合について、教育委員会としては3校同時に統合を進めたいと思っており、そこを目指すべきだと思っている。ただし、過去の事例で言うと、豊北に全部で8校あったのが今は1校になっているが、8校同時に統合したかということ、3段階ぐらいに分かれて、統合している。早くという話になって急ぐというのであれば、別々の統合はあり得る。

公民館の件については、地域の核になるには子供がいらないといけないというのはその通りである。こうすれば絶対大丈夫とは言えないが、例えば地域ふれあい活動というのを公民館の主催事業として、親子ふれあい活動をやっている。そういうのも教育委員会が企画してやっている。学校が統廃合になった地域も引き続きできる。こういうのを活用して、若い世代が公民館を活用できる環境になればよい。

■参加者

自分は教員をしていたこともあって、統合がいいかなと思っていたが、150周年記念誌を担当しながら思うのは、今までたくさんの保護者の人たちが小学校を支えるために頑張ってきたんだということ。閉校になるのは、忍び難いと感じた。また、気になるのが子供の郷土愛。小串の伝統行事を継続させるために、盆踊り保存会の人小串小学校に出向いて学校を挙げて活動したり、川中神社の御神輿を5、6年生が一緒にかついたり、そういうことは統合されると、小串の子供だけ別のところに連れて行くのは難しいと思うので、そういう郷土愛が育成されていくのは大丈夫なのかなというのがある。小規模校も普通の学校も一長一短あるので、例えば小規模校は残して、グループ学習や話し合い、多数の人間と活動する授業のようなものを月に何回か作っておいて、スクールバスを利用して小規模校の子供たちが川棚小学校へ行くとか、そういったことは考えられないのか。

□教育委員会

郷土愛について、豊北では小学校は一つになっているが、それぞれの地域でやっていたことを豊北小ですべてできるかというところが難しいが、それまで各校でやっていた行事を学年ですることはできている。神玉小全校でやっていた赤米の田植えを、豊北小の5年生がやる。各地域でやっていたことが、学校の工夫で取組が残っているものもある。今やっていることと同じことは統合すると難しい。

小規模校を残して大規模校と交流というのは、工夫すればできる。それから、小中連携とともに小小連携もしっかりやっていくように市教委も言っている。1つの学習を例えば道徳や総合的な学習を小串小、宇賀小と川棚小が一緒になって行うのは取組としてはできると思う。実際に会って交流しなくても、タブレット端末上でも一緒に授業ができる。適正規・模適正配置の話とはずれるが、小中連携と一緒に小小連携もしっかりと取り組んでいくことはできる。今すぐ統廃合にならなかったとしても、そういうことで小規模校のデメリットを解消することもできる。

■参加者

小串小学校、夢が丘中学校のPTA会長もしてきた。ただ1つ、地域の皆さんも含めての話だが、現実を考えましょう。小学校がなくなることは考えられないし、自分自身もなくなって欲しくない。でも現実問題として今の0人が6人になるわけではないし、今0になった1年生が来年ちゃんとして入ってくるのかわからないし、一番のネックはそこだと思う。

現状なら兄弟がいれば入る可能性もあるかもしれない。ただ、今、こども園で子供たち同士が仲良くなって、そこで行く学校は川棚小。これがやっぱり現実だと思う。だから、地域で当然その保護者も含めて子供たちも含めて考えていく、その5年間だと思う。

もう1つだけ質問で、実際に反対したらどうなるのか。子供が1人だけでも残すのか、それが一番聞きたい。地域を今公民館だと言っているが、一部の人間しかやっていない。みんな考えたらわかるのではないかな。みんなが参加しているのか。根本的に考えなければいけないのはそこではないかなと思う。だったら子供が増えるのか、現実問題維持ができるのか。ここをもう一度、みんなで考えていくべきだと思うし、教育委員会も、現実本当に反対したら最後に1人でも残ってる人がいたらやるのかということを教えてほしい。

□教育委員会

1人になっても統廃合しないのかということについて、今までの取組としては、地域の合意なしに統廃合したことはないし、現時点でもこれを変えるという

考えはない。そういうことから言うと、もし地域が統廃合に合意できないという意思表示を受け止めたなら、計画期間の5年間、統廃合の実施はできない。その間、仮に児童が1人なってしまっても、学校はあるので、1人になってしまった学校にも先生の配置はある。学校がある限り学校運営しないといけないというのが市の責任。1人になって学校はあるが、それは結果なので、それをよしと考えてるわけではないが、合意に至らなければ実施しない。

■参加者

現役の保護者として、この会が意義のあるものになるよう、いくつか提言をさせていただきます。

自分も小串小学校、夢が丘中学校、下関双葉高校とPTA会長、副会長をした。今は下の子どもが川棚小学校に通っている。小串に住んでいて川棚に通っている。多いからそっちに行こうという簡単な理由ではない。子供に発達の遅れがあるので、少人数がよいのか大人数がよいのかと考えて、両方の学校を何ヶ月か見学に行って、教育委員会の相談会、スクールカウンセラー、かかりつけの小児科医と何ヶ月も議論をして、人数が多い方が刺激が多いのではないかとということで川棚に通っている。簡単に人数が多い方に校区外通学ができるということではないということだけ知ってもらいたい。

子供の教育に格差があってはならないと、まず第1に考える。複式学級は一人一人にきめ細やかな対応ができる反面やはり一人にかかる時間は半分になると考えている。また少人数は集団行動にも制約がある。実際この3校は夢が丘中学校に進んだときに、少人数であった学校と大人数であった学校と、なかなか交わりが難しいという現実がある。

10年以上前からこの議論があったが、少子化に対する行動や成果が全くないのがそもそも原因と思う。先ほどもあったように、例えば「5年待ってくれ子供を増やすから」と言える人がどれだけいるのか。その成果が出せるのかというのがある。数字で決めて欲しくないという意見もあるが、数字でしか示せない。例えば、1人、2人、3人の学年が、ドッジボールがしたいと言ったら誰が相手をしてくれるのか。地域の方がここに駆けつけてくれるのか。それから、小規模校でも教職員は工夫が必要になってくる。川棚小学校は20数名教職員がいるが、1人病欠で欠けただけで右往左往している。これが統合することで教職員不足が解消すれば、結果的に児童一人一人の対応に当たれるのではないかと。地域が一緒になってとあるが、運動会の盆踊りで踊らない地域が、どの口が言っているんだろうと思う。

統合後に、子供たちが不利益を被らないように強く求めるという観点で議論ができればいいと考える。スクールバスの話があったが、例えば教育委員会から

はスクールバスを出すので認めて欲しいとか、地域はスクールバスが出るなら認めるとか、そういった議論がここであつたらいいなと考える。

□教育委員会

提言ということなので個別の回答はしないが、いただいた意見は持ち帰る。

■参加者

町内ではないが下関市内の大規模校の話。教室から飛び出す児童がいて、先生がそれを追いかけるので手一杯。教員だけでなく、保健室とか給食関係の先生まで追いかけているというような現実がある。さっき現実を見ましょうという意見があつたので、統廃合の話が進む前に、川棚小学校の現状がどうであるかというのは確認した方がよい。

それとさっき気になったが、子供へのアンケートで、困りごとが何ですかともし聞かれたのだとしたら、それは明らかな意見を誘導するものではないか。小規模特認校のことを期待しているかもしれないが、吉母小学校は10年以上ずっとそれを希望してきたにもかかわらず、絶対取り入れられなかったので、それを今提言したからといって、市教委が受ける可能性はとても少ないと思う。先ほどの質問でもあつたが、豊北町はどうなったかという質問をしたら、課題もあると思うが、1つ1つは把握していないという答えをした。少なくとも統廃合に関して、小串小学校児童のメリット、デメリット、地域のメリット、デメリットをはっきりしないと話を進めるのは難しいと思う。

それから、川棚小学校の問題だが、今、川棚小学校に通っている人もいるかもしれないが、今から児童数が増えたとして、災害が起きて、子供を引取りに行くというときに、どんなに大混乱になるかということを、やっぱり見ておいた方がよい。

□教育委員会

川棚小学校の状況については、地域との話し合いの中でいろんな情報を伝えていく。小串地域において、小串小が統合されるという部分、地域に判断してもらう時に、メリット・デメリットについて、実際の声を聞きながら議論していかないといけない。

子供に関するアンケートについては、通学に関して困っていることは何かという質問をしている。決して誘導はしていない。

小規模特認校については、現在、うつい小中学校がある。小規模特認校は、適正規模・適正配置の手法ではない。内日小学校、中学校の規模を確保していくために、施設一体型の小中一貫にしたが、あわせて通学の特例で、位置的なところ、

学校の環境を考えて採用した。ほかの地域でこれを採用する予定はない。

災害については、各学校で災害に影響がないというところばかりではない。学校によってはハザードマップの網がかかっているところは他にもあるので、災害については対策をしていくしかない。ハザードマップの網がかかっていないから大丈夫だというわけでもない。網がかかっているところは、特に注視して対策をしていかなければならない。それに対して学校がどう対策するかなので、避難の仕方を考え、課題は解決していかななくてはならない。

■参加者

今までいろんな意見が出たと思うし、他の校区でも統廃合の意見が出ていると思う。これらについて、教育委員会のホームページ等を通して、別途で出していきたい。概略でよい。そうすると最近ネット時代なので、いろんな人が目にする機会も出てくるし、ペーパーにして配るとなったらとんでもない話になる。広くいろんな人に目を通していただくのが必要ではないかということで、検討していただきたい。

□教育委員会

今月パブリックコメントを実施しているので、パブリックコメントはこれで公表して、今月 10 ヶ所で説明会をしているが、どういう質問があってどう答えたかについて、ホームページで公表する予定にしている。

■参加者

適正化の計画の意見を書く紙をもらっていると思う。今まで 3 回以上あったが、何通ぐらい回収があったのか気になった。総合支所にも、適正規模・適正配置基本計画への意見を入り口に置いているが、これを投入するところがある。そしてすぐに書けない人は、FAXとかメールとかで出せるようにしている。この紙自体を、こちらの方にして欲しい。これまでの 3 回でこの紙はどれくらい回収しているのか。

□教育委員会

今手元に枚数はない。各会場ではらつきがあるが 10 枚程度はある。